

近年、「健康経営」への取組に注目が集まっています。「健康経営」とは、社員の健康を重要な経営資源と捉え、健康増進に積極的に取り組む企業経営のスタイルのことを言います。

しかしながら、現実には、働き盛り世代では仕事への負担が増加しており、健康づくりのために時間を割く余裕がないことなどから、適切な健康管理ができていない者が増加傾向にあります。そこで、鳥取県では、平成25年度に策定した「鳥取県健康づくり文化創造プラン（第二次）」において、新たに「社会環境の整備」という項目を設け、職域における健康管理対策を強化しております。

そして、この度、鳥取県と全国健康保険協会（協会けんぽ）鳥取支部は、相互に連携・協働して県民の健康づくりを推進していくための協定を締結することとなりました。

県内の特定健診対象者のうち、協会けんぽの被保険者数は、県内の被用者保険の約8割を占め、その大部分が県内の中小企業の働き盛り世代です。

よって、この度の協会けんぽ鳥取支部との包括協定の締結により、相互に連携・協働して、様々な具体的施策が行われていくことで、県内の働き盛り世代の健康づくりが大きく前進していくのではないかと大いに期待しております。

包括協定締結後の具体的な施策としては、「健康経営マイレージ事業」や「企業の健康経営を考えるトップセミナー」といった連携事業の実施を予定しております。

多くの県内事業所が、これらの事業にご参加いただき、「健康経営」に取り組まれることで、職域から健康でげんきな鳥取県へと繋がっていくことを期待しております。



 鳥取県

鳥取県知事 平井 伸治